

記念講演

「分かりやすく話し伝えるために ～アナウンサーとしての経験をふまえて～」

関西テレビアナウンサー 関 純子

1 はじめに ～女子アナ奮闘記～

関西テレビのアナウンサーになって、早いもので29年が経ちます。私はごく普通のサラリーマン家庭に育ち、テレビ局のなんたるかも知らないまま、アナウンサーの仕事を始めました。

テレビ局に入ってから、驚きの連続でした。その1つが、業界用語です。「おはようございます」という挨拶は午前中に限らず使いますし、「巻く」「押す」「笑う」「やおや」といった言葉は、一般的な意味とは異なる使い方をします。他には、撮影のために偽物をたくさん使っていることにも驚かされました。例えば桜の木は、本物の木に、偽物の葉や花をつけて作っています。そのようにして、テレビという四角い箱の中に、夢の世界を作り上げています。

アナウンサーの仕事内容は、キャスター、リポーター、司会進行、提供読み、オーバーボイスなど多岐に渡ります。地震などの緊急放送に備えて、宿直勤務もあります。昔に比べて地震が増えたので、緊急放送の必要性も高まり、特に津波の避難を呼びかける放送は日頃から訓練しています。



2 新人アナウンサーの発声・滑舌練習体験

- (1) 呼吸は、横隔膜が上下するように、お腹に空気を入れるイメージで行います。吸った息をできるだけゆっくり吐きながら、「あー」とハリのある声を出してみましょう。目標は20秒程度ですが、アナウンサーは30秒を目指して練習しています。
- (2) 口は、大きく柔らかく動かすよう意識した方が、美しい音を出すことができます。また、文節ごとに話すようにすると、よりわかりやすくなります。
- (3) 発音は、それぞれの子音もつイメージを大切に行います。例えばサ行は爽やかに、マ行は優しく、ら行は音楽のようにと、日本語の1音1音を確かめながら言うと、とても情緒があります。日本語のすばらしいところです。
- (4) 滑舌は、言いにくいところを分解して、間を取るようにするとうまくいきます。また、例えば「ながまきがみ」であれば、『巻き紙』に『長』がついた」と、頭に意味を思い浮かべることが大切です。
- (5) 音量は、少し先にいる人に向かって伝えるように話すと、通りやすい声になります。

3 相手にわかりやすく伝えるコツ

- (1) ナレーションでは、イントネーションの上げ下げを意識することで、同じ文でも、異なる意味合いを表すことができます。「プロミネンスの確立」という手法では、ある部分を強く高く言うことで、他と際立たせることができます。大事な言葉の前で

少しポーズ（間）をとることで、際立たせることができ、聞き取りやすくなります。「チェンジ・オブ・ペース」という手法では、話題を変える時に話の調子を変えることで、聞き手の心構えを作ることができます。

- (2) リポートでは、インタビューする相手の方を安心させるために、様々な工夫をしています。まず笑顔で挨拶や握手をし、初めて会う方に心を開いてもらえるようにします。たとえ相手の方が年下であっても、「お話を聞かせてもらおう」という謙虚な姿勢が大切です。お話を伺いながら相手の方の様子を見て、触れてもいい話題かどうか判断し、嫌なことを無理強いしないよう気を付けます。人それぞれのパーソナリティがあるので、近づいた方がいいか、少し距離をとった方がいいかも判断します。声の大きさやトーンも相手の方に合わせるようにし、お子さんと話す時は、しゃがんで視線を合わせるようにしています。

4 インタビュー体験

インタビューする人、インタビューを受ける人、それを観察する人の3人一組になって、体験をしてみましょう。

人間は誰しも、話し上手、聞き上手とタイプが分かります。私は話したい気持ちが強い、聞くことが苦手なタイプなので、聞き上手にあこがれます。体験を通して、自分の得意や苦手を感じられたのではないのでしょうか。



5 まとめ

今回の講演をお引き受けするにあたり、3つの『ことばときこえの教室』で授業を拝見しました。子どもたちが先生方のことをとても信頼し、ホッとした表情をしていたのが、とても印象的でした。先生方は、子どもたちを上手にのせながらも、「親しき仲にも礼儀あり」を意識して、先生としてのお仕事をしっかりと果たしていました。子どもたちにとって、先生方との時間は宝です。先生という仕事のすばらしさを、改めて感じました。

人と話すことは、とても楽しいことです。話すことによって、その人をより深く知り、さらに仲良くなることができます。また手によっても、人はつながり合うことができます。手をつなぐ、両手を広げて迎える、背中をさする、手当てする、など、言葉だけではないこういった行動、さらには表情・態度もすべてがその人の気持ちを表し、人とのかかわりに深まりを与えます。子どもたちには、人とかかわることが楽しいと思える人に育ってほしいと思います。

言葉はとても大切ですが、一方で、言葉にとらわれすぎないことも大切であり、言葉に鈍感になるべき時もあると感じています。人は時に、感情的に言葉をぶつけ合うことがあり、その言葉だけを受け取り、噛みしめ過ぎることで深く傷つくことがあります。傷つく言葉は吐かないことが一番ですが、ふいに吐かれてしまうこともあり、そういった言葉に対して私たちは、鈍感になる必要もあると思います。相矛盾するようですが、言葉の力を大事にしなが、言葉に支配され過ぎないようにしていきたいものです。

(記録：全難言協広報部 小俣 美佳子)